

# 目標設定シート (2009年度)

## 部局と評価項目・要素

対象部局	言語教育研究センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的な検証を行っているか。
要素	

## ○2009年度からの目標

1. 全学的に学生の英語運用能力向上を目指し、英語インテンシブ・プログラムのクラス数を3年以内に2割増加させる。
2. 英語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語の教育と研究に関する共同研究の実施。
3. 選択必修科目としての中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語の全学提供体制を見直す。
4. 多言語・多文化の視野に立った学部横断的な言語教育のメニューを提供する。

※【本センターの理念・目的】  
言語教育を通じて、国際人として活躍しうる言語運用能力と異文化に対する優れた理解能力を有する人材を育成する。

## ○指標

1. 新中期計画（A-3）に基づく、英語常勤講師の増員、eラーニングシステムの導入、英語インテンシブ・プログラムのクラスの増加数。TOEIC, TOEFLの成績。
2. 「言語コミュニケーション教育ならびに言語教育のカリキュラム・教材の開発と研究」をテーマとした、各言語部会における共同研究成果の公表、『センター研究年報』の発行。言語教育に係る専任教員の成果公表、『言語と文化』の発行。
3. 全学提供体制をとる言語の体制の充実・改善。（履修希望者数、開講クラス数を指標として）
4. 12種の選択言語の提供。インテンシブ・プログラムを含む全学的な言語教育活動を紹介するパンフレットの作成と配布。